

---

檻

sola

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】  
檻

【Nコード】  
N9335L

【作者名】  
sola

【あらすじ】  
ある研究者の実験の被害にあったその恋人  
すでに「恋人」ではないけれど

## **(前書き)**

前に進む事も後ろに戻る事もできない

走り続けた研究者とその恋人だったモノの完結してしまった物語

いつものように仕事を終わらせた

最終確認をしろと言われていたので生臭くなった部屋を見渡した

空気が震えて人の気配を感じたから生きているモノがいるのかと  
半信半疑で探し回るとただ一人生きていた

逃げる体力どころか

もういつ死んでもおかしくないような状態だから  
わざわざトドメを刺す必要は無いと判断して  
死んでいく間に何かしでかさないように見張る事にした

本当は珍しかったのだ

いくら本部の監査がかすかにでも息のあるモノを残すなど言っ  
てき  
たって

私自身はきちんと殺しているつもりなのだから

ゆるやかに死んでいくモノが珍しくてじっと見ていた

もうほとんど死んでいると言っている状態のその男は  
わずかに残った体力で腕を動かそうとしているようだった

もうあと数分も無いのだからおとなしくしていればいいのに  
と思った時にどこからか男は写真を取り出していた

女の人と子供が写っていた

それが死の間際に最期の体力を使ってでも見たかったモノか

かすかに震える男の唇と目から流れる涙  
じっと流れていく涙を見ていた

その透明な雫が男の頬を流れていくほどに私は怖くなった

男が事切れる前に私はトドメを刺してその部屋から急いで出た

男にはそこまでするほどの大切なモノがあった  
という事だ

それは彼と同じ

私が今までしてきた事は………？

怖くなったと話したら彼はとても複雑な顔をした

悲しそうな笑顔という表現が正しい気がする

「お前が辞めたいなら私は全力を尽そう。」

辞める事など欠片も考えていなかったから驚いた

彼の話はいつも3歩も4歩も私の考えより先に行ってしまったているからどうしてそんな結論になったのかが解らなかった

殺す事が怖い      なら怖い事を続けたくないだろうという事だと彼は言った

「それでは私の存在意義がありません。」

今度こそ彼は悲しそうな顔をした

「お前が辞めたいのなら私は全力を尽そう。」

さっきと同じ事を繰り返す彼は私の目をじっと見つめていた

彼は嘘はつかないから  
それは事実なのだろう

「辞めたいと考えた事はありません。私はこの為だけにここに居ます。」

「……お前が辞めたいのなら…私…は……………」

彼はそれ以上は話さなかった

私の腕を強く握ってうつ向いたまま  
涙を流さずに泣いているのだと判った

大丈夫です

大丈夫

私は全て知っています

私はあなたに作られた事になっているけど  
本当はあなたと同じただの人間だという事

私が持っている力のせいで私は記憶を無くしてしまったという事

私の持っている力はあなたの研究の賜物だという事

私があなたの大切な人であったという事

あなたは大切な人に

こんな実験をしなければいけないほどに追い詰められていた事

あなたはこの実験のせいで大切な人をこんなににしてしまうほどに壊  
れている事

あなたはこんなに壊れているのにそれでも私を愛している事



あなたは罪滅ぼしの為に  
せめて今の私の望みを叶えようとしている事

大丈夫です      大丈夫

だって考えたってしかたない

残酷かもしれないけれど  
きつとあなたの愛した人は帰ってこない

この力だってあなたの研究の成果なのだから  
無くしてしまう事だってできない

ほら

もうこれだけで私たちはここから一步も動く事ができない

私の知っている事を言ってしまうえばあなたは更に壊れていくでしょう？

だから私はただあなたの研究材料としてここで生きましょう

怖くなったのは

あなたと同じように誰かを想う人間をこれからも殺していくのだと  
理解してしまった事

「私はあなたの為に生きています。私の望みはあなたの望みを叶える事です。」

何も考える事ができなければ楽だったかもしれない

「お前が…望むなら……」

ああ、でもそれでは彼を慰める事さえできないのだ

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n9335/>

---

檻

2010年10月21日20時35分発行